

造田田の事とてやとの古謡よりいふにこれのいハ助語を切
是ハ^足あざれのうすといふ想と大鷹ハまふくもとぞうとぞも
意ハ狩人の多打つる田面とぞく鷹のをもと放れむと
くうれとこれのまはやもまればかりとぞものといふ
た種は豆皮の下は在りのとて君侯れのみふ足皮より爪
うげくとあてき皮とてうるとも昔ハみ色の糸もてせと
大鷹のまれのばぬやうはなとてものやとて三句塙本やと
造田とて此造田の事とてやも指うとてぬ親やとてつぎも
あざやとてあざとていふとて思ひやとていふはあやも多
く引
あざいふ古写本とていふは

江戸人玉函齋
吉村何某所藏

何人の謡ともあるといふ